

科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進

事後評価

STSフォーラム

(Science and Technology in Society *forum*)

機関名：特定非営利活動法人STSフォーラム

代表者名：理事長 尾身幸次

実施期間：平成 24 年度

目次

I. 国際集会の概要	1
II. 経費	2
III. 実施結果及び成果	3
1. 目標達成状況	3
2. 成果	4
3. 計画・手法	7
4. 今後の計画(取組の継続性・発展性)	8
IV. 自己評価	9
V. その他	10
VI. 別添リスト(別添 1～5)	11

I. 国際集会の概要

- プログラム名: 科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進
- プロジェクト名: STS フォーラム (Science and Technology in Society *forum*)
- 機関名: 特定非営利活動法人 STS フォーラム
- 代表者名 (役職): 尾身幸次 (理事長)
- 実施期間: 1 年間
- 実施経費: 59.6 百万円

国際集会の概要

1. 目標

科学技術分野における共通の価値観の確立に向けて、世界中の科学技術関係者のみならず、政治家・政策担当者・経済人・ジャーナリストといった幅広い分野の人々が、科学技術の“光と影”の問題を議論し、世界規模の行動につなげていくこと。

2. 必要性

STS フォーラムは事務局を日本に置き、毎年年次総会を京都で開いている。STS フォーラムは日本で実施されている、科学技術と人類の未来に関する最大の国際会議であり、国際的なコミュニケーションの場として定着しつつある。まさに国際政策対話の実現・科学技術外交の推進そのものである。

3. 具体的内容

テーマ: 「科学技術の光と影」Lights and Shadows of Science and Technology

- ・エネルギーと環境
- ・原子力の安全と将来の開発
- ・国際保健
- ・イノベーションの向上
- ・食糧と人口
- ・21 世紀のための大学の役割
- ・研究機関の刷新
- ・人類の未来の持続可能性を確保するために我々はどうすべきか
- ・情報通信技術とセキュリティ
- ・ライフサイエンス
- ・イノベーション、新素材
- ・教育と能力向上
- ・自然保護
- ・人間居住
- ・科学と社会

4. 実施計画

- (1) 第 9 回 STS 年次総会及び特別会合
- (2) ワシントン会議・欧州会議
- (3) STS 年次総会準備のための各国個別会合

実施体制

理事長: 尾身幸次

事務総長: 山元孝二

事務局長: 芹澤 ゆう

採択時コメント

本提案は、科学技術の発展に伴って生ずる光と影の両側面を念頭に、科学技術の発展に資する共通の価値観確立を目指し、世界の幅広い分野の人々による議論を進め、人類の未来に貢献しようとする重要な取組である。

科学技術を専門家だけに委ねるのではなく、幅広く多数の国々の関係者によって議論を進めようとする構想は卓抜している。政策対話に向けて複数の重要なテーマを対象に議論が行われることにより、科学技術全般に及ぶ成果が期待できる。また、同時に開催する会議として、出席する各国要人による大臣会合、アカデミー会員会合、大学学長会合、研究機関長会議などがあり、多くの波及効果が期待できる。本提案は、「ダボス会議」の科学技術版として世界に認められてきており、我が国がリーダーシップを発揮できる良い機会として、これまでの実績を踏まえて高く評価できる取組でもある。なお、本年度実施に当たっては、この優れた取組が継続して発展するための仕組み作りを進めるとともに、成果を広く国民に周知することを期待する。

II. 経費

(単位:百万円)

項目	所要経費
1. 人件費	
(1) 事業担当職員費	10.4
2. 事業実施費	
(1) 国内旅費	2.8
(2) 外国旅費	5.4
(3) 外国人等招聘旅費	0.1
(4) 会議開催費	19.4
(5) 通信運搬費	0.3
(6) 印刷製本費	3.6
(7) 雑役務費	17.6
所要経費 (合計)	59.6

Ⅲ. 実施結果及び成果

1. 目標達成状況

(1) 目標の達成状況

・計画(目標)

近年、科学技術は急速に発展し人類の生活の向上・経済の発展に大きく貢献してきた。その反面、環境問題(地球温暖化等)、クローン人間の問題、IT(情報技術)とプライバシー侵害の問題などの、科学技術の発展に伴うマイナス面も生じてきている。すなわち、科学技術の発展には“光”と“影”の両側面がある。今後の人類の将来を考えると、こうした科学技術が人類の生活の向上や経済の発展に寄与するいわゆる“光”の部分伸ばし、“影”部分をコントロールしていく必要がある。このためには、科学技術の専門家のみならず、政治家・政策担当者・経営者といった幅広い分野の人々が、しかも、世界中から集まり一堂に会して、科学技術をどのように扱っていくかを議論する必要がある。このために開催しているのが STS フォーラムであり、科学技術分野における共通の価値観の確立に向けて、世界中の幅広い分野の人々が議論し、世界規模の行動につなげていくことを目的としている。

・平成 24 年度における実施計画は、以下のとおりである。

i. 第 9 回 STS 年次総会及び特別会合

世界 96 の国・地域・国際機関からおおよそ 1,000 名の政治家・経営者・政策担当者・学者などの幅広い分野の人々が集まり開催する。

テーマ:科学技術の光と影

Lights and Shadows of Science and Technology

ii. ワシントン会議・欧州会議

STS フォーラム理事会及び評議員会の開催

iii. 各国個別会合

STS 年次総会の結果報告

世界各国においてテーマ・内容についての議論と、京都会議への招聘

・達成状況

i. 第 9 回 STS 年次総会の準備及び開催

2012 年 10 月 6 日～9 日

国立京都国際会館

世界96の国・地域・国際機関からおおよそ1,000名の政治家、経営者、政策担当者、学者などが一堂に会し、「科学技術の光と影」をテーマにして、エネルギーと環境、原子力の安全と将来の開発、世界の健康医療、人口・資源、21世紀の大学の役割、世界の研究機関の活動状況、情報通信技術など、地球、人類の諸課題について、全体会議及び分科会で議論した。議論の集約化は、「声明」としてとりまとめ、公表し、各国元首、国際機関の長等に然るべきルートを通じて提出し、理解を求めた。

ii. STSフォーラムの特別会合の準備及び開催

特別会合(科学技術大臣会合・科学アカデミー会長会合・大学学長会合・科学技術資金支援機構代表者会合・工学アカデミー会長会合・研究機関長会合)を、第9回年次総会と同会場において開催した。

iii. STSフォーラム理事会及び評議員会の開催

・第9回STSフォーラム年次総会と併行して理事会と評議員会を開催し、次年度における事業計画、収支予算の承認や、年次総会における声明について議論した。

・2013年1月、米国ワシントンにおいて、STSフォーラムの理事会及び評議員会を開催し、第9回年次総会の報告と第10回年次総会のプログラム、スピーカー等について議論した。なお、欧州会議は、2013年4月、フランス・パリにおいて理事会及び評議員会を開催した。

iv. 各国個別会合

2012年8月～2013年3月

露、独、米、タイ、マレーシア、中国、サウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦、イスラエル、インドネシア、豪、仏、ウクライナ、カザフスタン及びモンゴルにおいて、STS年次総会の結果報告や、各国要人とSTSフォーラムに関する幅広い意見交換を行うとともに、招聘活動を実施した。

(2) 採択コメントに対する対応

STS フォーラムは、会議開催の仕組み等が、これまでの長年の実績によって蓄積されており、今後ともこの取り組みの継続・発展に向けて、種々の努力を続けて参りたい。波及効果としては、大臣会合等の特別会議の外に年次総会前後に各地で関連の国際会議、シンポジウム等様々な会議や会合も行われた。また、国民への周知については、一昨年度の追加コメントを踏まえて、引き続きマスコミ対応や日本語提供に力を注いでいる。

(3) 所期の計画どおりに進捗していない場合の理由、対処、実績 計画通りに進捗

2. 成果

(1) 実施状況

- ① 「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STS フォーラム)」第9回年次総会を2012年10月7日～9日の3日間、国立京都国際会館において開催した。世界96の国・地域・国際機関からおおよそ1,000名の科学者、政策立案者、ビジネスマン、ジャーナリスト等が一堂に会して、科学技術と人類の未来について議論、意見交換を行った。毎年、科学技術は新たな発見や発明をもたらし、我々の生活、社会、文化に影響を与えているが、本フォーラムは、この分野での最新の成果とその人類に与える影響について意見交換する重要な場を提供してきた。

【2012年第9回 STS フォーラム年次総会】

「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」

○平成24年10月7日(日)

開会式・全体会議 「科学技術と人類の未来」

全体会議 「エネルギーと環境」

全体会議 「原子力の安全と将来の開発」

全体会議 「世界の健康医療問題」

分科会 第1シリーズ(7会場に分かれて併行開催)

- ・化石燃料の将来
- ・個別化医療の最前線
- ・イノベーション
- ・産・学・官の連携
- ・海洋
- ・居住環境の発展：スマートシティ
- ・科学技術外交と国際協力

○平成23年10月8日(月)

全体会議 「イノベーションの推進：政治家・科学者・経営者間の対話」

分科会 第2シリーズ(7会場に分かれて併行開催)

- ・再生可能エネルギー/過渡的エネルギーの課題と解決策
- ・老化の科学
- ・ナノテクノロジー/エレクトロニクスと光通信
- ・21世紀の科学・工学教育
- ・水問題
- ・居住環境の発展：気候変動への適応
- ・持続可能な世界と人間行動の変化

- 全体会議 「人口・資源問題」
 分科会 第3シリーズ(7会場に分かれ併行開催)
 ・原子力技術の将来性
 ・感染症
 ・新素材
 ・開発途上国における人材育成
 ・災害対策
 ・知的財産権
 ・科学技術の啓蒙
- 全体会議 「21世紀の大学の役割」「世界の研究機関の活動状況」
 ○平成23年10月9日
 全体会議 「分科会総括」
 全体会議 「情報通信技術と安全制」
 全体会議・閉会式 「持続可能な社会の構築のためにどう前進すべきか？」

② 年次総会開催の準備会合の開催

評議員会及び理事会を次のとおり開催した。

i. 京都会議

- ・理事会を2012年10月8日、国際京都国際会館において開催
2013事業年度の事業計画及び収支予算について議決した。
- ・評議員会を2012年10月8日、京都において開催
第9回年次総会のフォーラム声明案を検討するとともに、第10回年次総会に向けた意見交換を行った。

ii. ワシントン会議

2013年1月、ワシントン、全米科学アカデミーにおいて開催した。

- ・理事会
2012年会計年度の決算状況について、報告を行った。
- ・評議員会
STSフォーラム第9回年次総会についての報告と意見交換を行った。
STSフォーラム第10回年次総会のプログラム・招聘スピーカー等について意見交換を行い、方向づけを行った。

(注) なお、欧州での理事会、評議員会は、2013年4月25日フランス・パリで開催した。

③ 各国個別会合の開催

i. 第9回年次総会開催に向けて、次のとおり情報収集・招聘活動を行うとともに、各国要人と意見交換を行った。

- | | |
|------------------|---------------------------|
| ・2012年4月15日-26日 | ドイツ会議の前後に英国、エジプト、アラブ首長国連邦 |
| ・2012年4月30日-5月1日 | 韓国 |
| ・2012年6月5日-8日 | ロシア |
| ・2012年6月11日-17日 | 米国(ニューヨーク)、ブラジル |
| ・2012年6月26日-29日 | フランス |
| ・2012年7月1日-6日 | 香港、インドネシア、マレーシア、シンガポール |
| ・2012年7月18日-20日 | 台湾 |
| ・2012年8月27日-29日 | 中国 |
| ・2012年9月8日-14日 | イスラエル、ドイツ |

ii. 第9回年次総会の結果報告や、情報収集・招聘活動を行うとともに、各国要人と意見交換を行った。

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| ・2012年10月29日-11月1日 | ロシア |
| ・2012年11月8日-16日 | ドイツ、米国 |
| ・2012年11月25日-12月2日 | タイ、マレーシア、中国 |
| ・2013年1月6日-17日 | 米国、サウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦 |

- ・2013年2月10日-22日 イスラエル、米国
- ・2013年3月5日-15日 インドネシア、オーストラリア
- ・2013年3月24日-4月4日 仏、ウクライナ、カザフスタン、露、モンゴル

(2) 国際交流の成果

① 将来に向けて、科学・技術の在り方を議論する国際的なコミュニケーションの場につながったか

STS フォーラムは、そもそも「科学技術の光と影」をテーマに、毎年京都の年次総会にトップリーダーが一堂に集って議論を行い、その結果を声明としてとりまとめている。総会に至るまでには、理事長自らが各国の要人と個別に意見交換し、また米国及び欧州で開かれる理事会、評議員会においては、年次総会の結果報告だけでなく、次回の個別テーマ等を話し合うなど、一年を通して、世界各地で科学技術の在り方が議論されている。

このように、STS フォーラムは、一過性の国際大会ではなく、各種の会議開催の仕組みがこれまでの実績によって蓄積されてきており、将来に向けた基盤は確立している。

② 民間団体主導による科学技術外交の戦略的展開につながる活動であったか

STS フォーラムの活動主体は、「特定非営利活動法人 STSフォーラム」であり、ここが中核となって各国政府の科学技術関係者のみならず、政治家、経営者、学者など幅広い分野の関係者に働きかけて各種会合を開催しており、まさに民間団体主導である。また、この開催については主に日本の関係者、関係機関が議長役、事務局機能等を担っており、我が国の科学技術外交の戦略的展開につながる活動である。

(3) 波及効果

① 海外から招聘された科学技術関係者、政府関係者、大学等研究機関関係者、民間企業等要人が、国際集会以外においても、我が国に波及効果をもたらしたか(我が国要人との会談、他の国際集会への出席等)

STSフォーラム第9回年次総会には、各界から下記のような代表者が集まった：

科学技術関係者(ノーベル賞受賞者8名)、政府関係者(23カ国の科学技術・高等教育大臣、22カ国の研究資金を配分する機関の長)、大学等研究機関関係者(大学学長47名、科学アカデミー代表17名、工学アカデミー会長14名)、民間企業要人(世界のトップ企業の代表が100人以上)。

京都の第9回年次総会の波及効果は、下記のような会議等が挙げられる。

イ. 年次総会の本会議とは別に、それぞれのグループが下記のような会合を行い、成果が現れている：

- A. 科学技術政策・高等教育担当大臣会合(10月7日16:15~18:30)が前原誠司内閣府特命担当大臣を議長として行われ、12カ国の大臣、10カ国の科学顧問・次官等大臣級ないしその代理者が参加した。また前原大臣はこの機会を利用して、リノ・バラニャオ科学技術・生産革新大臣(アルゼンチン)、ゲリー・グッドイヤー科学技術担当国務大臣(カナダ)、ナディア・イスカンダル・ザハーリ科学研究大臣(エジプト)、ジョン・ベディントン政府首席科学顧問(英国)と各々二国間会談を行った。
- B. 科学アカデミーの代表の会合(10月8日14:30~16:30)が日本学術会議・大西隆会長とインドのラル・クリシャン、国立科学アカデミー会長の共同議長のもとに行われ、19カ国の代表が参加した。
- C. 工学アカデミー会長の会合(10月8日14:30~16:30)、日本の工学アカデミーの小宮山宏会長と全米工学アカデミー会長のチャールズ・ヴェスト会長の共同議長のもとに行われ、14カ国の代表が参加した。
- D. 大学学長会合(10月8日12:20~14:20)が開催され、東京工業大学の三島良直学長とカリフォルニア工科大学のジャン・ルー・シャモー学長が共同議長を務め、世界の大学40の大学の学長が参加した。
- E. ファンディング・エージェンシーの長の会合(10月8日10:00~12:20)が開催され、ドイツ学術振興会(DFG)のクライナー会長と科学技術振興機構の中村道治理事長が共同議長を務め、30カ国の代表が参加した。
- F. 研究機関長会合(10月6日13:30~18:00)が初めて開催され、フランス National Center for

Scientific Research (CNRS) のアラン・フックス理事長と、理化学研究所の野依良治理事長が共同議長を務め、17ヶ国の代表が参加した。

ロ. 他の国際集会への出席:

STS フォーラム第9回年次総会前後に、東京を始めとして、各地で関連の国際会議、シンポジウム、委員会等様々な会議・会合が行われ、STS フォーラムの主要参加者は、そのような場で登壇・発言した。

10月6日 「京都オープンシンポジウム」 京都大学 主催者:STS フォーラム京都サポート委員会

10月6日 EU科学政策フォーラム「日本の新しいエネルギーミックス」→信頼できる政策構築に向けて 京都グランドプリンスホテル 主催者:駐日欧州連合(EU)代表部

10月10日 原子力発電所事故の影響に関する国際会議 主催者:日本学会会議

10月10日 「科学技術の持続可能な未来」信州大学 主催者:JST

10月9日-11日 「バイオ・ジャパン 2012」 横浜 主催者:バイオ・ジャパン運営委員会

10月10日 2012 Green and Life Innovation 東京 主催者:日本貿易振興機構(JETRO)

② 我が国のプレゼンス向上につながったか

イ. 年次総会での議論をもとに、原子力やエネルギー問題、世界的な保健問題、高齢化の問題をはじめとする世界、人類の共通課題についての科学技術政策提言としてとりまとめた声明は、世界147カ国の元首、国連の事務局長を含む国際機関の長に、然るべきルートを通して提出した。

ロ. 2012年10月ロシアにて開催された、“Moscow International Forum for Innovative Development”や、2013年3月フランスにて開催された、“BioVision 2013”など各国の国際会議において京都会議(STS フォーラム第9回年次総会)の報告を求められ、その招聘に応じて各地にて実施した。

3. 計画・手法(「II. 経費」とも関連)

① 目的・内容にかんがみて、予算の使途は適切であったか

NPO 法人 STS にフォーラムの活動は、全てが STS フォーラム開催のためであり、またその決算については、公認会計士事務所の監査及び法人の監事の監査を受けるとともに、理事会の承認を得ており、予算は適切に実施されている。

② 国際的なコミュニケーションの場を有効にする工夫等は適切に行われたか

i .STS フォーラムは、事務局を日本に置き、毎年、年次総会は日本の京都で開いている。持ち回りでの開催、あるいはその年だけ日本で開催されるものではない。また、理事会・評議員会を米国、欧州で開いて、毎年議論すべき適切なテーマと、それにふさわしいスピーカーを選んでいる。年次総会では、テーマごとに全体会議を開くとともに、更に個別テーマを対象とした数多くの分科会を開催し、数十人規模による、より具体的かつ専門的な意見交換を行なった。更に、コーヒブレークの時間などを設け、参加者が個別に会合を持つなど相互の意見交換を行う機会を設定した。

ii .毎年10月年次総会の最終日には、議論の集約化を図り、世界、人類の共通課題を声明(Statement)として取りまとめ、マスコミに公表している。

iii .世界中からのトップリーダーが多数集まる機会を活用し、科学技術大臣会合・機関長会合・大学学長会合等の特別会合を開催した。

iv .10月の年次総会だけではなく、年間を通じて、理事会、評議員会、各国個別会合の開催により、世界各地で多くの意見交換・交流を行った。

4. 今後の計画(取組の継続性・発展性)

- | |
|--|
| <p>① 実施期間終了後も、科学・技術の在り方を議論する国際的なコミュニケーションの場の定着に向けた国際交流を継続するための工夫・見通しについて</p> <p>② これまでの取組を発展させる、実施期間終了後の明確な国際交流についての継続ビジョンについて</p> |
|--|

- i. 毎年 10 月、京都において開催している STS 年次総会の議論をもとに、世界・人類の共通課題についての科学技術政策提言としてとりまとめた声明(Statement)については、マスコミに公表するとともに、各国元首、各国際機関長に送り、理解を求めている。
- ii. これらの開催結果は、米国及び欧州で毎年開催している理事会、評議員会に報告するとともに、次回のテーマやスピーカーについて個別、具体的に議論している。また、各国を訪問し、各分野の要人と個別に会談し様々な意見交換や、総会への招聘活動も行なっているところである。
- iii. 特に、米国においては、その関係者は極めて大きな役割を果たしており、STS フォーラム アメリカンアソシエイツが創設され、2011 年 1 月には、アメリカ合衆国・内国歳入庁により、寄付に関する免税法人として認められた(AA-STIS 米国規約 501(c)(3)によって免税法人指定を受けた)。フォーラムへの招聘や寄付の呼びかけなど米国における支援活動が年間を通じて行われている。2012 年 6 月には、ニューヨークにおいて同法人主催によるワークショップが開催され、今年度も、その活動の活性化が図られる予定である。
- iv. 本 STS フォーラムは、これまで 9 回の開催を通じて、既に参加国約 100 カ国、参加者数約 1,000 人を数えるまでに発展してきたが、未だ未参加国は多く、また参加して欲しい関係者は世界に数多く存在するため、引き続き財政的基盤の確立に努めつつ、内外の関係者に理解を求め、また各国個別の招聘活動等に力を注ぐなど、本フォーラムの継続的発展に全力を注いで参りたい。

IV. 自己評価

1. 目標達成度

◎当初の目的である、科学技術外交の展開という点においては、第9回年次総会の開催、それに並行して実施された特別会合の開催、また年間を通じての海外における説明、招聘活動、理事会、評議員会等の開催を通じて、十分な成果を挙げると同時に、実績が蓄積され、基盤が形成されてきている。

◎平成24年度は、大震災及び原発事故の影響から脱却し、世界96の国・地域・国際機関からおおよそ1,000名の参加者を誘致することができた。平成25年度は100カ国以上、内外1,000人以上の参加者を目標として準備を進めている。

2. 成果

◎STSフォーラムが過去8回の開催により築きあげた基盤により、昨年度も無事京都での第9回年次総会が敢行され、今後の継続にもつながっていることは、本事業の目的であるところの、科学技術外交の展開における大きな成果であると認識している。

◎国際会議は人選が難しく、大事なところである。STSフォーラムではそれぞれの国や組織からベストの人を呼ぶことを重視している。この点、STSフォーラムは、世界中の科学技術関係者のみならず政治家・政策担当者・経済人・ジャーナリストといった幅広い分野のトップリーダーの人々が、科学技術の光と影の問題を議論することで、参加者にとっては、世界規模の重要テーマに関する最新かつ幅広い情報の入手を可能とする場を提供し、問題意識の向上に貢献している。

◎STSフォーラムのサイドイベントとして、フォーラム終了後に日本学術会議、科学技術振興機構(JST)、バイオ・ジャパン運営委員会やJETROで講演会やシンポジウムが企画されている。STSフォーラムの主要な参加者がそういった会議の登壇者となっている。その結果として、STSフォーラムの求心力も高まっており、また経費の削減にもつながっている。

◎従来、世界人類のための会議として開催しているSTSフォーラムに関する情報については、もっぱら英語で提供してきたが、一昨年度の追加コメントを踏まえて、引き続き、マスコミ対応に力を注ぐとともに、報告書やホームページについては、できるだけ日本語提供も行っている。

3. 計画・手法の妥当性

特定非営利活動法人STSフォーラムの活動は全てがSTSフォーラム開催のためであり、またその決算については、公認会計士事務所の監査及び法人の監事の監査を受けるとともに、理事会の承認を得ており、予算は適切に実施されている。

4. 実施期間終了後における取組の継続性・発展性

年間を通して理事会、評議員会、各国個別会合を開催し、京都会議への招聘を積極的に進め、本取組の継続的な展開を図るとともに、毎年、米国・ニューヨークにおいてワークショップを開き、米国内におけるSTSフォーラムに対する理解促進を行っている。また2013年4月には仏国・パリにおいてワークショップを開催するなど、米国だけでなく欧州においても、本取組の継続性、発展性に引き続き力を注いで参りたい。

V. その他

STS フォーラムは、世界中から政治家、経営者、政策担当者、学者などの幅広い分野の、しかもそのトップリーダーが一堂に会し、世界・人類の諸課題について意見交換、交流を行う、科学技術では世界随一の国際会議である。ここでは、我が国の関係者、関係機関が様々な形でそのリーダーシップを取るとともに、会場内外においても、各種の会合が持たれており、まさに我が国が科学技術の分野で世界的リーダーシップを発揮し、科学技術外交の展開に資する良い機会となっている。これらの活動は、民間団体主導による良さを最大級活かしつつ、我が国官民挙げて推進していくべきものであり、特に政府に対しては、財政面を中心にその支援を引き続きお願いしたい。

VI. 別添リスト

- 1、主な参加者リスト
- 2、声明(ステートメント)和文
- 3、第9回年次総会スピーカーリスト
- 4、STS フォーラムについて説明機会を得た、他の国際会議のリスト
- 5、STS にフォーラムに関する報道状況

別添 1

2012 年度の主な参加者

政治分野・政府系機関の長(敬称略)

田中眞紀子	科学大臣
前原誠司	国家戦略担当兼科学技術政策担当大臣
フィオラゾ・ジュヌヴィエーヴ	フランス高等教育・文化・スポーツ・科学技術大臣
ビゴ・ベルナル	フランス原子力庁長官
ブラウン・ヘルゲ	ドイツ連邦教育研究相
クライナー・マティアス	ドイツ研究振興協会会長
ベティントン・ジョン	英国政府主席科学顧問
ストロマイヤー・ルドルフ	欧州議会研究技術革新副事務総長
グッドイヤー・ゲイリー	カナダ科学技術担当国務大臣
ザカリー・ナディア	エジプト科学・技術、科学研究大臣
カマール・マーガレット	ケニア高等教育科学大臣
フィリ・ジョン	ザンビア教育・科学技術大臣
ガゼンベ・ユニス	マラウイ教育・科学技術大臣
モウンドウンガ・セラフィン	ガボン教育・高等技術教育大臣
ブジャ・ラメ	コソボ教育・科学技術大臣
ハッタ・グスティ・ムハマド	インドネシア研究技術大臣
ワニアラクチ・パヴィトゥラ	スリランカ技術研究
バラニャオ・リノ	アルゼンチン科学技術・生産革新大臣

世界的に著名な有識者・研究者

フリードマン・ジェローム	マサチューセッツ工科大学名誉教授 (米国、1990 年ノーベル物理学賞受賞)
ルビア・カルロ	サステナビリティ研究所、技術担当理事 (イタリア、1984 年ノーベル物理学賞受賞)
ロバーツ・リチャード	ニューイングランドバイオラボ・チーフオフィサー (英国、1993 年ノーベル生理学・医学賞受賞)
李遠哲	台湾中央研究院名誉院長(台湾、1986 年ノーベル化学賞受賞)
野依良治	理化学研究所理事長(日本、2001 年ノーベル化学賞受賞)
小林誠	高エネルギー加速器研究所名誉教授 (日本、2008 年、ノーベル物理学賞)

サルストン・ジョン	ISEI/科学・倫理・革新協会会長 (英国、2002年、ノーベル生理学・医学賞)
山中伸弥	京都大学 iPS 細胞研究所 (日本、2012年、ノーベル生理学・医学賞)
コアナンタコール・ターウィーサック	タイ科学技術開発機構理事長

学術分野

ベスト・チャールズ	全米工学アカデミー院長(米国)
クライナー・マティアス	ドイツ研究振興協会会長(ドイツ)
カガマン・ヘニング	ドイツ科学技術アカデミー会長(ドイツ)
ウォルポート・マーク	ウエルカム・トラスト財団理事長
リーヌイカン・アレキサンダー	社会経済評議会理事長(オランダ)
ウォルバーグヘンリクソン・ハリエット	カロリンスカ研究所所長(スウェーデン)
セラゲルディン・イスマイル	アレクサンドリア図書館館長(エジプト)
天野之弥	IAEA 事務局長
小宮山宏	三菱総合研究所理事長、日本工学アカデミー会長
松本 紘	京都大学総長
濱口道成	名古屋大学総長
三島義直	東京工業大学学長
山内進	一橋大学学長
清家篤	慶応義塾大学塾長
野間口有	独立行政法人産業技術総合研究所理事長

財界

ホリデー・Jr.チャールズ O.	バンク・オブ・アメリカ会長、競争力評議会名誉会長(米国)
西田厚聰	東芝会長、日本経済団体連合会副会長(日本)
長谷川閑史	武田薬品工業社長、日本経済同友会代表幹事(日本)
米倉弘昌	日本経済団体連合会会長、住友化学株式会社代表取締役会長(日本)
八木誠	日本電気事業連合会会長、関西電力社長
小林喜光	株式会社三菱ケミカルホールディングス代表取締役社長(日本)
永山治	中外製薬社長(日本)
アナトリー・チュバイス	OJSC, 'RUSNANO' 最高経営責任者(ロシア)
エルネキアン・ユーゴ	アメリカコーポレーション副社長(アルゼンチン)
ザフーニ・エリアス	サノフィ・アベンティス社グローバル研究開発担当プレジデント(米国)

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)
第9回年次総会
(2012年10月9日、京都)
声明

1. STSフォーラム(特定非営利活動法人、本部:東京都千代田区、理事長:尾身幸次)は、2012年10月7日から9日にかけて第9回年次総会を開催した。96の国・地域・国際機関からおおよそ1,000名の科学技術、政治、ビジネス、メディア各界の世界的なリーダーが一堂に会し、我々の共通する課題を解消するため、いかにして科学技術の「光」を伸ばし、「影」を克服していくか、いかにしてイノベーションを促進していくかについて検討した。
2. 科学技術とイノベーションは、地球環境に対する脅威に対処するために今後とも必須である。現在のよ様な経済社会の困難な状況にもかかわらず、科学技術イノベーションへの必要な投資は実施されるべきである。
3. 将来のエネルギー供給は、安全に関する最高の基準、環境と社会の両面からの適合性及びライフサイクルでのコスト評価を順守した幅広い選択肢を含むべきである。国によって将来のエネルギー確保と持続可能性への道は異なる。原子力は当面、多くの国で引き続き重要な役割を果たすが、東京電力福島第一原子力発電所の事故は我々に原子力における安全が何よりも重要であることを示した。核セキュリティと核不拡散の取組みの強化も非常に重要である。
4. 世界的な保健問題については、ゲノム医療と再生医療に関する研究が急速に進展してきた。このような状況において、オーダーメイド医療と予防医療に関する研究もより一層推進されるべきである。感染症と非伝染性疾病に関する医療プログラム、とりわけ耐性菌に対する抗生物質の開発が強化されなければならない。民間、学会、政府・公的機関及び世界保健機構(WHO)間の、特に発展途上国の医療能力の強化に配慮した国際協力をより一層推進するためには新しい国際的なシステムが必要である。
5. 情報通信技術(ICT)は、教育、医療及びビジネス・チャンスにおける国内外の格差是正にとって非常に効果的な手段であるとともに、イノベーションと生産性向上を実現する鍵となるものである。予見できない変革をもたらすICTを巡る環境の急激な変化の中で、サイバーセキュリティとプライバシー対策に関する国際協力が非常に重要になりつつある。
6. ナノテクノロジーは、エレクトロニクス、フォトニクス、エネルギー、水、製薬、ライフサイエンス、物質・材料等の様々な分野で非常に重要な役割を果たすことが期待されている。ナノテクノロジーは、新しいフロンティアを開拓するものとしては元より、イノベーションにとっても鍵となる技術である。
7. 科学、研究、モニタリングと早期警報システム、インフラの整備及びハザードマップと調和した国土利用計画を活用することによって、防災及び災害時の対応に関する我々の能力を強化する必要がある。
8. 産学官連携はイノベーションと起業家精神の鍵となるものである。国際レベルを含め、産学官連携は包括的に促進されるべきであり、科学、工学、医学の各アカデミーが重要な役割を果たすことが期待される。科学技術の知識を実際の人類の福利厚生に活用するにあたっての工学の重要性が強調された。
9. 民間企業や学界における研究活動の世界的な発展に対応して、知的財産システムは国際的に共通の基本的社会基盤として改善されるべきである。イノベーションと経済発展を刺激するためには、国際的な協調が加速されることが求められている。

10. 今年初めて、STSフォーラムで 16 の世界の代表的な研究機関の長による会合が開催され、非常に生産的な意見交換が行われた。我々はこの会合が来年も開催されることを歓迎し、参加研究機関間の更なる協力が加速されることを期待する。
11. 科学技術外交は、国境を越えた関係を強化するものである。教育、研究及び地域における起業家精神を支えることは発展途上国の人材育成に不可欠である。資金配分機関(Funding Agency)は科学分野の国際協力関連プロジェクトに対して財政支援を行い、特に地球的課題について多国間提携を促進すべきである。
12. STSフォーラムの付帯プログラムである地域気候変動セッションでは、例えば、沿岸部が海面上昇にどのように備えているかといった、地域気候変動への適応を促進するベストプラクティスの再検討が行われた。地域気候変動に関する知識と行動ネットワークが、地域における気候変動への適応において効果的な手段であることが証明されている。
13. 科学技術は様々な変化をもたらすが、人々は、科学技術のリスクと利益を明確に説明されてはじめて、十分な情報を得た判断をすることができる。このため、科学者と社会の間の交流の機会を拡大するとともに意見交換の内容を改善すべきである。科学に関する一般の人々の関心を高め、情報を提供する上質な科学関連プログラムが開発されるべきである。
14. 人類の深刻な問題を解決するためには、科学技術だけでは十分ではなく、個人及び社会の行動を大きく変化させることが不可欠である。社会科学、人文科学及び社会イノベーションがこの点に関して重要な役割を果たしている。限りある資源をより効率的に使用することが必要であるという認識を促進していくには、一般人に対する啓蒙が必要である。
15. 高齢化は、高齢者介護や社会的なセーフティネットを提供するという点だけでなく、高齢者が生産的な市民として参加できる社会構造について改めて検討するという点で、我々にこれまでに例のない課題とチャンスを提供している。科学技術は人々の後半生の生活の質の向上に重要な役割を果たしている。
16. 既に世界の人口の半数以上が都市に居住し、都市化が急速に進んでいることにより様々な課題とチャンスが生まれている。科学技術と都市計画を活用した効率的で持続可能な「スマート・シティ」により、住みやすく人にやさしい都市環境の整備を推進する際に市民の声も反映するようにしなければならない。
17. 世界の人口が増大する一方で地球は有限である。我々は人類の状況について、20年や30年のタイムスパンではなく、より長期的な視点で考える必要がある。この点で、環境、エネルギー、食料及び水は持続性にとっての最重要課題である。このことは、人類にとって自然と調和して生活することが非常に重要なことであることを意味する。このため、我々は引き続き、持続可能性について焦点を当てていく。
18. 我々は、人類のより良い未来の建設に貢献するためにこの場に再び集うことを楽しみにしている。STSフォーラム第10回年次総会は2013年10月6日(日)から8日(火)まで開催される。我々は将来の世代に道を拓くため活動していく。

別添 3

第9回年次総会におけるスピーカーリスト

2012年10月7日(日曜日)

10:00-11:00 オープニングプレナリーセッション **100 : 科学技術と人類の未来**

議長: **尾身幸次** STS フォーラム創業者兼理事長、日本

スピーカー:

Tanaka, Makiko, Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology, JP
Fioraso, Geneviève, Minister of Higher Education and Research, FR
Holliday, Jr., Charles, Chairman of the Board, Bank of America Corporation, US
Yonekura, Hiromasa, Chairman, Sumitomo Chemical Co., Ltd.; Chairman, Keidanren (Japan Business Federation), JP
Baraño, Lino, Minister of Science, Technology and Productive Innovation, AR
Friedman, Jerome, Institute Professor and Professor of Physics Emeritus, Physics Department Massachusetts Institute of Technology (MIT), Nobel Laureate in Physics 1990, US

11:00~12:10 セッション **101 エネルギーと環境**

議長: **Beddington, John,** UK Government Chief Scientific Adviser, Government Office for Science, UK

スピーカー:

Isaacs, Eric D., President of UChicago Argonne, LLC, and Director of Argonne National Laboratory, US
Yagi, Makoto, Chairman, The Federation of Electric Power Companies of Japan, JP
Zakhary, Nadia, Minister of Science, Technology & Scientific Research, EG
Schotman, Gerald, Executive Vice President Innovation/R&D; CTO, Royal Dutch Shell plc, NL
Nishida, Atsutoshi, Chairman of the Board of Directors, Toshiba Corporation, JP

13:30-14:40 セッション **102 :原子力の安全性と将来の発展**

議長: **Bigot, Bernard,** CEO, Alternative Energies and Atomic Energy Commission (CEA), FR

スピーカー:

Oshima, Kenzo, Commissioner, Nuclear Regulation Authority, JP
Cashmore, Roger, Chairman, United Kingdom Atomic Energy Authority (UKAEA), UK
Pershukov, Vyacheslav, Deputy Director General, Chief Innovation Officer, State Atomic Energy Corporation ROSATOM, RU
Raj, Baldev, President, Indian National Academy of Engineering (INAE), IN
Amano, Yukiya, Director General, International Atomic Energy Agency (IAEA), JP

14:50-16:00 セッション **103 : 世界の健康医療問題**

議長: **Wallberg-Henriksson, Harriet,** President, Karolinska Institutet, SE

スピーカー:

Hasegawa, Yasuchika, President and Chief Executive Officer, Takeda Pharmaceutical Company Limited, Chairman of Keizai Doyukai, JP
Walport, Mark, Director, Wellcome Trust, UK
Yamanaka, Shinya, Director, Center for iPS Cell Research and Application (CiRA), Kyoto University, JP
Zerhouni, Elias, President, Global R&D, Sanofi SA, US

16:30-18:30 セッション **104-A1 :化石燃料の将来**

議長: **Toyoda, Masakazu,** Chairman and Chief Executive Officer, The Institute of Energy Economics, Japan (IEEJ), JP

スピーカー:

Ruehl, Christof, Chief Economist and Vice President, BP p.l.c., DE
Behrendt, Frank, Director, Innovation Centre EnergyBerlin Institute of Technology (TU Berlin);International Representative, acatech – German Academy of Science and Engineering, DE

Ikeda, Michio, Director, Executive Vice President, JX Nippon Oil & Energy Corporation, JP

Kenny, Brenda, President & Chief Executive Officer, Canadian Energy Pipeline Association (CEPA), CA

Tanguy, Philippe, Vice President of R & D Programs, Total S.A., FR

16:30-18:30 セッション **104-B1:個別化医療の最前線**

議長: **Roberts, Richard,** Chief Scientific Officer, New England Biolabs Incorporated, Nobel Laureate for Physiology or Medicine 1993, US

スピーカー:

Es Sabar, Karimah, President and Chief Executive Officer, Centre for Drug Research and Development (CDRD), CA

Krieger, Jose, Professor of Genetics & Molecular Medicine, Heart Institute (InCor) University of Sao Paulo – Medical School, BR

Meeker, David, President and Chief Executive Officer, Genzyme Corporation, US

Puente, Jorge, President, Asia Pacific-Canada Region, Oncology Business Unit Pfizer Inc., US

Syrota, André, President, Inserm (National Institute of Health and Medical Research), FR

Tsutsumi, Kazuhiko, Executive Officer, Vice President, Corporate Research and Development, Mitsubishi Electric Corporation, JP

West, Steve, Chief Executive Officer, Nordion (MDS Inc.), CA

16:30-18:30 セッション **104-C1:イノベーション**

議長: **Yeo, Philip,** SingBridge International Pte Ltd and SPRING (Standards, Productivity and Innovation Board) Singapore, SG

スピーカー:

Arakawa, Yasuhiko, Director of Institute for Nano Quantum Information Electronics; Director of Nanoelectronics Collabor The University of Tokyo, JP

Isaacs, Eddy, Chief Executive Officer, Alberta Innovates – Energy and Environment Solutions (AI-EES), CA

Parker, Richard, Director of Research & Technology, Research and Technology, Rolls-Royce plc, UK

Saracco, Roberto, Director, Future Centre and Scientific Communications, Telecom Italia SpA, IT

Wince-Smith, Deborah L., President & CEO, Council on Competitiveness, US

Zelinsky, Alexander, Chief Defence Scientist of Australia and Chief Executive Defence Science and Technology Organisation (DSTO), AU

16:30-18:30 セッション 104 – D1: 産・学・官の連携

議長: Kobayashi, Yoshimitsu Representative Director, Member of the Board, President and Chief Executive Officer, Mitsubishi Chemical Holdings Corporation, JP

スピーカー:

Bazergui, André, Special Advisor to the President & Chief Executive Officer, Consortium for Research and Innovation in Aerospace in Quebec (CRIAQ), CA
Revellin-Falcoz, Bruno, President, National Academy of Technologies of France (NATF), FR
Edwards Russell, President Nichicon (America) Corporation; Operating Officer, Nichicon Corporation, US
Mackay, Martin, President R&D, Astrazeneca, UK
Mello, Luiz, Director of Technology, Vale S.A, BR
Abdul Hamid, Zakri, Science Advisor to the Prime Minister of Malaysia, Malaysian Government, MY

16:30-18:30 セッション 104-E1 : 「海洋」

議長: Roy, Craig, Deputy Chief Executive, Science, Strategy and People, Commonwealth Scientific and Industrial Research Organisation (CSIRO), AU

スピーカー:

Djamaluddin, Ridwan, Deputy Chairman, Natural Resource Development Technology Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT) ID
Taira, Asahiko, President, Japan Agency for Marine Earth Science and Technology (JAMSTEC), JP
Woodruff, David, Director, Sustainability Solutions Institute, University of California, San Diego (UCSD), US

16:30-18:30 セッション 104-F1 : 居住環境の発展: スマートシティ

議長: Onishi, Takashi, President, Science Council of Japan (SCJ), JP

スピーカー:

Goldstein, Rose, Vice-Principal, Research and International Relations, McGill University, CA
Lim, Neo Chian, Chief Executive Officer, Singbridge International Pte Ltd., SG
Murai, Yoshihiro, Governor, Prefecture of Miyagi, JP
Rinnooy Kan, Alexander, President, Social-Economic Council (SER), NL
Rubinstein, Ellis, President and Chief Executive Officer, New York Academy of Sciences (NYAS), US

16:30-18:30 セッション 104-G1: 科学技術外交と国際協力

議長: Rütbig, Paul, First Vice-Chairman of Science and Technology Options Assessment (STOA); Member European Parliament, AT

スピーカー:

Boucher, Richard, Deputy Secretary-General, Organisation for Economic Cooperation and Development (OECD), US
Campbell, Donald W., Senior Strategy Advisor, Davis LLP, CA
Moriguchi, Yasutaka, Vice Minister, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), JP
O'Reilly, David, Group Scientific Director, British American Tobacco Plc., UK

19:30-21:00 セッション 105: 公式晩餐会

議長: Eurnekián, Hugo, Vice President, Corporación America, AR

2011年10月8日(月曜日)

8:30-9:50 セッション 200 本会議: イノベーションの推進: 政治家・科学者・経営者

議長: Kagermann, Henning, President, acatech (National Academy of Science and Engineering), DE

スピーカー :

Goodyear, Gary, Minister of State for Science and Technology, CA

Durongkaveroj, Pichet, Secretary General, National Science Technology and Innovation Policy Office,

TH Scientists / Academics

Chameau, Jean-Lou, President, California Institute of Technology (CALTECH), US

Van den hove, Luc, President & Chief Executive Officer, IMEC, BE

Chubais, Anatoly, Chief Executive Officer, OJSC "RUSNANO", RU

Uchiyamada, Takeshi, Vice Chairman of the Board, Toyota Motor Corporation

10:20 - 12:20 セッション 201- A2 : 再生可能エネルギー/過渡的エネルギーの課題と解決策

議長: Somerville, Chris, Director, Energy Biosciences Institute (EBI), Professor, University of California Berkeley, US

スピーカー:

Atwater, Harry, Howard Hughes Professor and Professor of Applied Physics and Materials Science, California Institute of Technology (CALTECH), US

Darchis, François, Senior Vice President, Member of the Executive Committee, Air Liquide Group, FR

Denhoff, Eric, President and Chief Executive Officer, Canadian Hydrogen and Fuel Cell Association (CHFCA), CA

Hato, Hideo, President, New Energy and Industrial Technology Development Organization (NEDO), JP

10:20-12:20 セッション 201-B2 老化の科学

議長: Komiya, Hiroshi, Chairman of the Institute Mitsubishi Research Institute, Inc.; President Emeritus, The University of Tokyo, JP

スピーカー:

Ricquier, Daniel, Vice-President Foreign Secretary, Academy of Sciences of France, FR

Ugrumov, Mikhail, Advisor to the President of RAS on International Scientific Cooperation, Presidium of the Russian Academy of Sciences on Foreign Affairs, Russian Academy of Sciences (RAS); Head of Laboratory, Institute of Developmental Biology RAS, RU

Staudinger, Ursula, Vice President and Dean, Jacobs Center on Lifelong Learning and Institutional Development Jacobs University Bremen, DE

Berger, Geneviève, Chief Research and Development Officer, Unilever NV, FR

Breton, Guy, Rector, Cabinet du recteur, University of Montreal, CA

10:20-12:20 セッション 201- C2: ナノテクノロジー/エレクトロニクスと光通信

議長: Yeh, Nai-Chang, Professor, Physics, California Institute of Technology

(CALTECH)), US

スピーカー:

Noda, Susumu, Professor, Department of Electronic Science & Engineering, Kyoto University, JP
Suter, Ulrich, President, Swiss Academy of Engineering Sciences (SATW), CH
Chang, Ching-Ray, Dean, College of Science; Professor Department of Physics, National Taiwan University (NTU), TW
Higashi, Tetsuro, Chairman, Tokyo Electron Limited, JP
Ferrari, Andrea, Professor of Nanotechnology, Engineering Department, University of Cambridge, IT

10:20-12:20 セッション 201 **D2: 21 世紀の科学・工学教育**

議長: **Dijkgraaf, Robbert,** Director and Leon Levy Professor, Institute for Advanced Study (IAS) in Princeton, NL

スピーカー:

Chi, YoungSuk "YS", Chairman, Elsevier Inc., US
Eichler, Ralph, President, Swiss Federal Institute of Technology (ETH) Zurich, CH
Kobayashi, Makoto, Professor Emeritus, High Energy Accelerator Research Organization (KEK), Nobel Laureate for Physics 2008, JP
Ponomarev, Alexey, Vice President, Industrial Cooperation and Public Programs, Skolkovo Institute of Science and Technology, RU

10:20-12:20 セッション 201 - **E2: 海洋**

議長: **Hüttl, Reinhard,** President, acatech (National Academy of Science and Engineering); Scientific Executive Director, German Research Centre for Geosciences (GFZ) DE-

スピーカー:

Abe, Koichi, Senior Vice President, Toray Industries Inc., JP
Desmarescaux, Philippe, Founder, BioVision FR
Eggen, Rik, Deputy Director, Swiss Federal Institute of Aquatic Science and Technology (Eawag), CH
Hatta, Gusti Muhammad, Minister of Research and Technology, Ministry of Research and Technology (RISTEK), ID
Lowry, Don, President and Chief Executive Officer EPCOR Utilities Inc., CA
Zehnder, Alexander J.B., Scientific Director, Alberta Innovates - Energy and Environment Solutions Water Resources, Former President of the ETH Board, Swiss Federal Institute of Technology (ETH), CH

10:20-12:20 セッション 201-F2: **開発途上国における人材育成**

議長: **Kennel, Charles,** Distinguished Professor Emeritus, Scripps Institution of Oceanography, University of California, San Diego (UCSD); Senior Advisor, Sustainability Solutions Institute, US

スピーカー:

Kasuga, Fumiko, Vice President, Science Council of Japan (SCJ), JP
El-Beltagy, Adel, El Sayed Tawfik, Chair, International Dryland Development Commission (IDDC); President of the Governing Board, International Centre for Advanced Mediterranean Agronomic Studies (CIHEAM), EG
Taniguchi, Makoto, Program Director, Core Research Hub; Head of Division of

Research Development, Center for Coordination, Promotion and
Communication, Research Institute for Humanity and Nature
(NIHU) JP

Tremewan, Christopher, Secretary General, Association of Pacific Rim Universities (APRU),
NZ

10:20-12:20 セッション 201-G2: 持続可能な世界と人間行動の変化

議長: Friedman, Jerome, Institute Professor and Professor of Physics Emeritus,
Physics Department, Massachusetts Institute of Technology (MIT) US

スピーカー:

Carty, Arthur, Research Professor and Executive Director, University of Waterloo
Institute for Nanotechnology, CA

Colombani, Pascal, Chairman of the Board, Valeo S.A., FR

Gutscher, Heinz, President, Swiss Academies of Arts and Sciences (AWS), CH

Matsumoto, Yoshihisa, Executive Vice President, Representative Director, Idemitsu Kosan Co.,
Ltd., JP

Steen, Tomoko, Senior Research Specialist, Science, Technology and Business Division
Library of Congress; Adjunct Professor, Department of Immunology and
Microbiology, Georgetown University, Medical School, US

13:00-14:10 セッション 202: 人口・資源問題

議長: Sulston, John, Chair, Institute for Science, Ethics and Innovation (isei), Nobel
Laureate for Medicine 2002, UK

スピーカー:

Kamar, Margaret, Minister of Higher Education, Science and Technology, KE

Nagayama, Osamu, Chairman & CEO, Chugai Pharmaceutical Co., Ltd., JP

Bhumiratana, Sakarindr, President, King Mongkut's University of Technology, Thonburi (KMUTT),
TH

Shiraishi, Takashi, Executive Member, Council for Science and Technology Policy (CSTP), JP
Lee, Yuan Tseh, President Emeritus; Distinguished Research Fellow, Institute of Atomic and
Molecular Sciences, Academia Sinica; President, International Council for
Science (ICSU); Nobel Laureate for Chemistry 1986, TW

14:20-16:20 セッション 203 - A3: 原子力技術の将来性

議長: Stricker, Laurent, Chairman, World Association of Nuclear Operators (WANO), FR

スピーカー:

Bolshov, Leonid, Director of the Nuclear Safety Institute (IBRAE RAN), Russian Academy of
Sciences (RAS), RU

Parmentola, John, Senior Vice President, General Atomics, US

Allen, Jack, President, Asia, Westinghouse Electric Company LLC, US

Morichi, Massimo, Senior Vice President R&D, Areva Group, FR

14:20-16:20 セッション 203-B3: 感染症

議長: Nagai, Yoshiyuki, Director of Center of Research Network for Infectious Diseases
(CRNID), RIKEN, JP

スピーカー:

Dobner, Thomas, Scientific Director, Molecular Virology, Heinrich-Pette-Institute, DE

Sawanpanyalert, Pathom, Deputy Director General, Department of Medical Sciences (DMSc), Ministry of Public Health (MOPH), TH
Matar, Maryam, Founder and Chairman, UAE Genetic Diseases
Hayashizaki, Yoshihide, Director, Omics Science Center, RIKEN, JP
Kiyono, Hiroshi, Dean, Institute of Medical Science, the University of Tokyo, JP

14:20-16:20 セッション 203 C3: 新素材

議長: **Ushioda, Sukekatsu,** President, National Institute for Materials Science (NIMS), JP
 スピーカー:
Cheetham, Anthony, K., Goldsmiths' Professor of Materials Science, University of Cambridge, Treasurer and Vice-President, The Royal Society, UK
Iskandar, Marzan Aziz, Chairman, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), ID
Kirschbaum, Robert, Vice President Open Innovation, CTO Office Royal DSM N.V., NL
Mazur, Eric, Dean of Applied Physics, Balkanski Professor, School of Engineering and Applied Sciences, Harvard University, US
Neltner, Louis, Head of Corporate R&D/Innovation, Solvay S.A., FR
Shankland, Ian, Vice President and Chief Technology Officer, Honeywell Inc., US

14:20-16:20 セッション 203-D3: 開発途上国における人材育成

議長 : **Kurokawa,** Kiyoshi, Professor, National Graduate Institute for Policy Studies (GRIPS), JP
 スピーカー:
Abdulrazak, Shaukat, Secretary / Chief Executive, National Council for Science and Technology, KE
Hara, George, Group Chairman and CEO, Defta Partners, Ambassador, UN; Chairman of the Board, Alliance Forum Foundation, JP
Quevedo, Fernando, Director, the Abdus Salam International Centre for Theoretical Physics, GT
Yusof, Fadillah, Deputy Minister, Ministry of Science Technology and Innovation (MOSTI), MY

14:20-16:20 セッション 203 : E3 災害対策

議長: **McBean,** Gordon Professor and Research Chair of Institute for Catastrophic Loss Reduction, Departments of Geography & Political Science, University of Western Ontario CA
 スピーカー:
Takeuchi, Kuniyoshi, Director, International Center for Water Hazard and Risk Management (ICHARM), Public Works Research Institute (PWRI), JP
Yasuda, Yutaka, Chairman of KDDI R&D Laboratories, JP
Loyzaga, Antonia, Executive Director, Manila Observatory, PH
Amirinia, Hamidreza, Advisor to the Presidency and Head Center for Innovation and Technology Cooperation of I.R. of Iran Presidency; Member of Commission, Supreme Council of Science, Research and Technology (ATF), IR
Koshimura, Shunichi, Professor, International Research Institute of Disaster Science Tohoku University, JP
Rovins, Jane, Executive Director, Integrated Research on Disaster Risk (IRDR), US

14:20-16:20 セッション 203 - F3: 知的財産権

議長: Dickinson, Todd, Executive Director, The American Intellectual Property Law Association (AIPLA), US

スピーカー:

Iwai, Yoshiyuki, Special Advisor / Former Commissioner Japan Patent Office (JPO), JP
Jørgensen, Anne, Director, Policy and Legal Affairs, Danish Patent and Trademark Office, DK
Stoll, Robert, Former Commissioner for Patents, USPTO, Partner, Drinker Biddle & Reath LLP, US

Kaiserswerth, Matthias, Director and Vice President, IBM Zurich Research Laboratory, IBM Research GmbH, CH

Kitano, Hiroaki, President & CEO, Sony Computer Science Laboratories, Inc., JP
Thampuran, Raj, Managing Director, A*STAR (Agency for Science, Technology & Research), SG

Kitano, Hiroaki, President & CEO, Sony Computer Science Laboratories, Inc., JP

14:20-16:20 セッション 203 - G3: 科学技術の啓蒙

議長: Rubinstein, Ellis, President and Chief Executive Officer, New York Academy of Sciences (NYAS), US

スピーカー

Appenzeller, Tim, Chief Magazine Editor, Nature, US
Mainzer, Klaus, Professor, Chair for Philosophy of Science, Director of the Munich Center for Technology in Society, Technical University of Munich (TUM), DE

Patel, Ketan, Chief Executive Officer, Greater Pacific Capital, UK
Strohmeier, Rudolf, Deputy Director General, Directorate General for Research and Innovation, European Commission, BE

Tachikawa, Keiji, President, Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA), JP
Cohen, Jay, Principal, Chertoff Group, US

16:50-18:00 セッション 204 A:21 世紀の大学の役割

議長: Matsumoto, Hiroshi, President, Kyoto University, JP

スピーカー:

Braun, Helge, Parliamentary State Secretary, Federal Ministry of Education and Research, DE

Chalupa, Leo, Vice President for Research, George Washington University, US

Rajatanavin, Rajata, President, Mahidol University, TH

Dorfan, Jonathan, President & CEO, Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University, US

Naylor, David, President, University of Toronto, CA

16:50-18:00 セッション 204 B: 世界の研究機関の活動状況

議長: Fuchs, Alain, President, French National Center for Scientific Research (CNRS), FR

スピーカー:

Nomakuchi, Tamotsu, President, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), JP

Mason, Thom, Laboratory Director, Oak Ridge National Laboratory (ORNL), US

Koanantakool, Thaweesak, President, National Science and Technology Development Agency (NSTDA), TH

Nicolais, Luigi, President, National Research Council (CNR), IT

2011年10月9日(火曜日)

8:30-9:25 セッション 300: 各セッションからの主要メッセージ

議長: **Kleiner, Matthias,** President, German Research Foundation (DFG), DE
スピーカー

Bamberger, Yves, Scientific Advisor of the Chairman and CEO, Electricité de France (EDF), FR

Goel, Anita, Chairman and Chief Executive Officer, Nanobiosym Diagnostics, Inc, US

Migus, Arnold, Senior Counsellor, French Court of Audit, FR

Bazergui, André, Special Advisor to the President & Chief Executive Officer, Consortium for Research and Innovation in Aerospace in Quebec (CRIAQ), CA

Hassan, Mohamed, Co-Chair, iap, SD

Yamauchi, Susumu, President, Hitotsubashi University, JP

Blanco, Herminio, Founder and Chief Executive Officer, Soluciones Estratégicas, MX

09:25-10:15 セッション 301: 参加者自由討論

議長: **Kleiner, Matthias,** President, German Research Foundation (DFG), DE

10:45-11:40 セッション 302: 情報通信技術と安全性

議長: **Yoshikawa, Hiroyuki,** Director-General, Center for Research and Development Strategy (CRDS), Japan Science and Technology Agency (JST), JP

スピーカー:

Suffolk, John, SVP, Global Cyber Security Officer, Huawei Technologies Co, Ltd., UK

Piou, Olivier, Chief Executive Officer, Gemalto, FR

Okuda, Motoi, Executive Architect, Technical Computing Solutions Unit, Fujitsu Limited, JP

Rangaswami, JP, Chief Scientist, Salesforce.com, Inc., IN

11:45-12:30 セッション 303: 最終本会議: 持続可能な社会の構築のためにどう前進するべきか?

議長: **Serageldin, Ismail,** Director, Library of Alexandria, EG

スピーカー:

Rubbia, Carlo, Scientific Director, Institute for Advanced Sustainability Studies e.V. (IASS), Potsdam, Nobel Laureate for Physics 1984, IT

Grantham, Jeremy, Co-founder and Chief Investment Strategist, Grantham Mayo Van Otterloo (GMO), UK

Correia de Campos, António, Chairman of Science and Technology Options Assessment (STOA), European Parliament, PT

Omi, Koji, Founder and Chairman, STS *forum*, JP

別添 4

海外で STS フォーラムについて説明機会を得た国際会議のリスト

1.

会議名: BioVision Alexandria 2012
期間 : 2012 年 4 月 22 日 - 4 月 25 日(出席は 4 月 23 日のみ)
開催都市 : エジプト・アラブ共和国アレクサンドリア市
主催者 : Bibliotheca Alexandrina
スピーチタイトル : Fostering A Strong Japanese Bioindustry

2.

会議名 : Forum on Science, Technology and Innovation for Sustainable Development
期間 : 2012 年 6 月 11 日 - 6 月 15 日(出席は 6 月 15 日のみ)
開催都市 : ブラジル連邦共和国リオデジャネイロ市
主催者 : International Council for Science
スピーチタイトル : Toward A Sustainable World: The Future of Nuclear Energy

3.

会議名: Hasso Plattner Ventures 8th Forum
期間 : 2012 年 9 月 12 日
開催都市 : ドイツ連邦共和国ポツダム市
主催者 : Hasso Plattner Institute
スピーチタイトル : Science and Technology for the Benefit of Future Generations

4.

会議名: Moscow International Forum for Innovative Development
期間 : 2012 年 10 月 31 日 - 11 月 3 日 (出席は 10 月 31 日のみ)
開催都市 : ロシア連邦モスクワ市
主催者 : モスクワ市
スピーチタイトル : Developing the Private Sector to Promote Innovation

5.

会議名 : BioVision 2013
期間 : 2013 年 3 月 24 日 - 3 月 26 日
開催都市 : フランス共和国リヨン市
主催者 : La Fondation pour l'Université de Lyon
スピーチタイトル: Biodiversity: Conservation and Sustainable Use

別添5

STSフォーラム第9回年次総会(2012年)関連報道・記事
新聞

10月日

産経新聞(大阪版)

10月日

イタルタス通信(ロシア語)

10・8・

イタルタス通信(ロシア語)

読売新聞(東京版)

読売新聞(大阪版)

読売新聞(名古屋版)

読売新聞(札幌版)

読売新聞(福岡版)

読売新聞(高岡版)

日本経済新聞(東京版)

日本経済新聞(大阪版)

日本経済新聞(名古屋版)

日本経済新聞(札幌版)

日本経済新聞(福岡版)

毎日新聞(東京版)

毎日新聞(大阪版)

毎日新聞(名古屋版)

毎日新聞(札幌版)

毎日新聞(北九州版)

産経新聞(東京版)

産経新聞(大阪版)

フジサンケイビジネスアイ(東京版)

フジサンケイビジネスアイ(大阪版)

日刊スポーツ(東京版)

日刊スポーツ(大阪版)

日刊スポーツ(名古屋版)

日刊スポーツ(札幌版)

日刊スポーツ(福岡版)

スポーツニッポン(東京版)

スポーツニッポン(札幌版)

スポーツニッポン(福岡版)

東京中日スポーツ(東京版)

東京中日スポーツ(名古屋版)

東京中日スポーツ(福岡版)

長崎新聞(長崎版)

南日本新聞(鹿児島)

佐賀新聞(佐賀版)

高知新聞(高知版)

四国新聞(高松版)

愛媛新聞(松山版)

山陽新聞(岡山版)

日本海新聞(鳥取版)

京都新聞(京都)

神戸新聞(神戸版)
大阪日日新聞(大阪版)
伊勢新聞(津版)
山梨日日新聞(甲府版)
茨城新聞(水戸版)
神奈川新聞(横浜版)
下野新聞(宇都宮版)
福井新聞(福井版)
新潟日報(新潟版)
信濃毎日新聞(長野版)
北日本新聞(富山版)
福島民友(福島版)
デーリー東北(八戸版)
東奥日報(青森版)
岩手日報(盛岡版)
河北新報(仙台版)

10月日

イタルタス通信(ロシア語)
日本経済新聞(東京版)
日本経済新聞(大阪版)
日本経済新聞(名古屋版)
日本経済新聞(札幌版)
日本経済新聞(福岡版)
京都新聞(京都版)
新潟日報(新潟版)

10月0・

読売新聞(東京版)
読売新聞(大阪版)
読売新聞(名古屋版)
読売新聞(札幌版)
読売新聞(福岡版)
読売新聞(高岡版)

10月7日

日経産業新聞(東京版)
日経産業新聞(大阪版)

10月2日

産経エクスプレス(東京版)
産経エクスプレス(大阪版)

10月3日

産経エクスプレス(東京版)
産経エクスプレス(大阪版)

10月4日

産経エクスプレス(東京版)
産経エクスプレス(大阪版)

10月5日

産経新聞(東京版)

産経新聞(大阪版)

TV

10・7・

NHK News 7 (日本語)

10・8・

NHK News (日本語)

10・9・

NHK News 7 (日本語)

12・8・

NHK News 7 (日本語)